

No.	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30
タイトル	自動除雪ロボット	目覚ましリング(腕輪)	調理補助ロボット	鳥型ロボット	アットホーム手すりロボット	農業薬剤散布型 自走式スプリンクラー	草むしりロボット	道案内ペット型ロボット	目覚ましロボット	ツボ押しロボット 「ツボッシャー」
目的・狙い	自動(無人)化することで、高齢者をはじめとする生活者の負担を減らす	音＋振動＋電流で起こしてくれる。	料理の下ごしらえをしてくれる。献立を考えてくれる、栄養を考えてくれる。	鳥が飼えない人でも鳥と触れ合える	家庭内で手すりの代わりになることを目的とし、使用する人認識したり、その人に合わせた高さで自動で調整。	薬剤使用料を適正地まで制限しつつ節水可能な延長ホースを使わない自走式スプリンクラー	雑草をつまんで根っこごと引き抜く	防犯機能、安全確認、体調管理機能など弱者に役立つ機能を持つ	身体に装着して振動することで目を覚まさせる	足や手などのツボを押してくれる
ユニークさ 新規性・独創性	(記載なし)	電流は最終手段。基本は音＋振動	材料を入力したら栄養面を判断してくれる	カメラを仕込み鳥目線で景色を楽しめる、着地や鳴き声など鳥らしさを再現	使用する人を認識して自動で高さ変更する機能は他には見当たらない。	ライトレース機能により、水流をロボットが自走し、そこからくみ上げて水を確保	つまんで引っ張る機能はユニーク	ペット型で行動や鳴き声でコミュニケーション。スマホで鳴き声を文字で表現する。	スヌーズ型の目覚ましではなく、確実に二度寝を防止できる	低周波パッドもあるが、足裏などに着目した電動ロボットでツボ押しに特化
社会的価値 市場性	高齢者家庭、豪雪地域、押し型(耕運機型)除雪機を代替	目覚まし時計だけで目覚めない人へ。人に迷惑をかけない。他の人起したくないケースに。	献立で苦労する人、料理の下ごしらえが面倒な人に大きなニーズ。	癒しの効果、娯楽	様々な人が暮らす状況に対応した機能の家を提供することは多様化の進む社会において価値がある。	大規模農地は無人ヘリがまかなう。小規模複雑地形の場所では本ロボットが対応	家庭、農地で労力負担の軽減。刃物を使わず安全。	子供や高齢者の危険や犯罪巻き込まれに対し、本ロボットが第二の監視カメラとなる。	目覚まし時計市場の中で新しいタイプ	仕事中、作業中、就寝中でも使える
開発の難易 実現可能性	ルンバを雪かきに応用	手首用血圧計の形、振動は携帯電話のバイブ、電流は電気ショック用品のイメージ	クックパッドをインストール、下ごしらえは食品を扱う工場の機械を参考に、百貨グッズも活用	ラジコンやドローンを参考に	個人を認識する技術は既存技術の応用ができる。機械面で手すりを動かす動力を確保することが課題。	ロボット本体と水路を含む自走ラインの組み合わせ。動力源は水流ポンプ、ロボットの散布ポンプ、自走動力が必要。エンジン、バッテリーの組み合わせ。	庭の範囲を把握すること、雑草の認識、雑草によっては抜けにくいこと、などが課題	犬型を想定しているが、その大きさが機能を増やせるかが課題。	軽量化が鍵だが、解は少ない。	充電機構が必要
環境への優しさ	溶かすと路面が滑りやすくなるので多少凹凸をつける。溶かさない。	(記載なし)	(記載なし)	エンジン飛行ではなく生物としての鳥をモデルに。	低消費電力として非使用時のスリープ機能をつける。ゴム製キャタピラで動力伝達し、周囲へ配慮。	水路は組み立て型とし、自由な地形に合わせた形状に配置できる。	根っこから引きぬくのでロボット可動回数が少なく、草刈り型より省エネ。	防塵防水、耐久性、長時間稼働バッテリーが必要	内蔵振動モーター、腕輪ロック機構、などパーツは少ない。腕輪部分は充電池、腕輪置き場は電池式。	充電式で環境にやさしい
上記以外の アピール点	大きなパワーを使わずに少しずつ削っていく	ワイヤレスイヤホンで周囲に音が響かない、普通の腕時計としても使える。	ランダムで献立を考えてくれる。材料だけで栄養を判断してくれる。	ロボットらしさを出さずに小翼羽をつけるなど、鳥らしく。	IoT＊１)の概念を取り入れた生活の一部として取り入れられるロボット。	通信用危機を設けて遠隔操作も可能になるのではないかと。	一般家庭で使えるので身近で親しみやすいデザインを採用	ペットを飼えない人にも好まれる。会社のマスコットにも。	二度寝防止としてロックから解除の間に計算させるというステップを差し込んだ	(記載なし)

＊１) IoTとは、コンピュータなどの情報・通信機器だけでなく、世の中に存在する様々な物体(モノ)に通信機能を持たせ、インターネットに接続したり相互に通信することにより、自動認識や自動制御、遠隔計測などを行うこと。